

記入見本

書類に不備がある場合は受理できないこともあるため注意すること。

看護研修学校用

公益社団法人日本看護協会

2025年度 特定行為研修受講申請書類

申請書類チェックリスト

様式1 受講申請書

様式2 履歴書

様式3-1 推薦書（病院長や所長などの施設管理者）

様式3-2 推薦書（県協会もしくは関連団体の長など）

様式4 受講動機

様式5-1／認 実習施設情報

様式5-2／在宅領域 ⑪b-1、b-2 実習施設情報

受付番号_____

申請書類チェックリスト

氏名 清瀬 太郎

チェックリストで申請書類の有無を確認のうえ提出してください。

【①～⑪-a 受講希望者】

☒	【本用紙】申請書類チェックリスト
☒	【様式 1】受講申請書
☒	【様式2】履歴書
☒	【様式3-1】推薦書（病院長や所長などの施設管理者）
☒	【様式5-1】実習施設情報
☒	認定看護師認定証の写し（有効期限内のもの）

【⑪-b1、⑪-b2 受講希望者】

☐	【本用紙】申請書類チェックリスト
☐	【様式 1】受講申請書
☐	【様式2】履歴書
☐	【様式3-1】推薦書（病院長や所長などの施設管理者）
☐ 任意	【様式3-2】推薦書（県協会もしくは関連団体の長など）
☐	【様式4】受講動機
☐	【様式5-2】実習施設情報
☐	看護師免許証の写し ※ A4判に縮小コピー

受 講 申 請 書

公益社団法人日本看護協会 会長 様

私は、下記の特定期間研修を受講したく、ここに関係書類を添えて申請します。申請にあたり「募集要項」10ページに記載の特定期間研修法に基づく表記の内容を理解した上で申込ます。

記

■基本コース（全員受講 但し、⑪-b2 除く）

1. 共通科目	基本コースのみ受講希望
2. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ①脱水症状に対する輸液による補正 ②持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	※基本コースのみの受講希望者は○をつける。

※ 区分別科目①～⑨の内、受講希望の科目を選択して○をつける

■選択コース（任意）

※ 領域別パッケージ研修⑩、⑪はいずれか一つを選択して○をつける。ただし、⑩⑪を選択した場合は区分別科目①～⑨選択不可

※ 1年の研修期間内で臨地実習を修了できる科目数を考慮し、選択すること

選択番号	区分別科目名・領域別パッケージ研修	受講希望	特記事項
①	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	○	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連のみ、及び①～⑪-aは認定看護師が対象
②	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	○	
③	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連		
④	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル関連）		
⑤	創傷管理関連		
⑥	動脈血液ガス分析関連		
⑦	感染に係る薬剤投与関連		
⑧	血糖コントロールに係る薬剤投与関連		
⑨	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連		
⑩	領域別パッケージ研修「救急領域」		
⑪-a	領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」		
⑪-b1	領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」 「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」を選択する		⑪-b1、⑪-b2は在宅領域に従事する看護師が対象
⑪-b2	領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」 「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」を選択しない		

西暦 2025 年 1月〇日

氏名（自署） 清瀬 太郎 印
現住所 〒204-0024
東京都清瀬市研修1-2-3 ハイッ看護梅園123
TEL (04X) 49X-746X
認定看護師資格 なし・ あり（分野名 集中ケア）

履 歴 書

西暦 2025年 1月 ○日現在

正面上半身
(40×30mm)
3か月以内に
撮影したもの
裏面に氏名を記入

フリガナ	キヨセ タロウ	男・女
氏 名	清瀬 太郎	
生年月日	(西暦) 1985 年 5月 12日生 (満 39歳)	

フリガナ	トウキョウト キヨセシ ケンシュウ ハイヅカンゴウメゾノ	TEL (04X) 49X-746X
現住所	〒204-0024 東京都清瀬市研修1-2-3 ハイヅ看護梅園123	携帯TEL 090 - XXXX-0000 E-mail kiyose@nurse. XX. jp
日本看護協会会員番号(8桁) ※会員の場合のみ		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
フリガナ	イリョウホウジンウメゾノカイ ニホンカンゴケンシュウビョウ ウイン	施設概要
所属施設名	医療法人梅園会 日本看護研修病院 *正式名称を記入すること	【病床数】 333床 【看護体制】 7 対 1
設置主体	(⑫) ※「申請書類の記入にあたって」2. 記入方法 2) 履歴書の該当番号を記入	
所属施設 住 所	〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-2-3	TEL (04X) 49X-746X 所属部署もしくは内線番号 (9999) FAX (04X) 49X-721X
免許取得年月日	保健師 西暦 年 月 日	号
	助産師 西暦 年 月 日	号
	看護師 西暦 20〇〇年 〇月 〇日	〇〇〇〇〇〇 号
認定看護師資格分野名 _____ 集中ケア _____ 分野	認定看護師資格取得年 西暦 20〇〇年 〇月 〇日	認定登録番号 〇〇〇〇 号
専門看護師資格分野名 _____ 分野	専門看護師資格取得年 西暦 年 月 日	認定登録番号 号
学 歴		
大学院(修了年月と大学院名・学科・専攻等を下記に記入、在学中の場合は「在学中」に○をつける)		
西暦 20〇〇年 3月修了/在学中	清瀬大学大学院 修士課程〇〇専攻〇〇分野	
認定看護師教育(修了月と機関名を下記に記入) ※認定看護師教育課程修了者のみ記入		
西暦 20〇〇年 〇月修了	日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程集中ケア学科	

推 薦 書

受講者氏名 清瀬 太郎_____

推薦理由を記載する

西暦 20〇〇 年 〇月 〇 日

施 設 名 医療法人梅園会日本看護研修病院

推薦者職位 所長

推薦者氏名 松山 園子 印

(代表者は病院長や所長などの施設管理者)

受付番号_____

受講者氏名 清瀬 太郎

西曆 20〇〇 年 〇 月 〇 日

推薦者氏名 看護 梅子 印

(推薦者は都道府県看護協会会長もしくは関連団体の長等)

受講動機

1) 自身のこれまでの看護実践活動内容

2) 特定行為研修受講による活動に対する今後の期待

枠の調整は行わず1枚にまとめ、読める文字サイズとする。

実習施設情報

1. 実習を行う予定の施設リスト

- 本会は研修修了後も特定行為の実践が有効に行われるよう、指導医^{*1}の継続した指導と安全に活動する施設基盤を重要と考えるため、自施設実習を原則としている。

^{*1} 指導医とは臨床研修指導医、もしくは臨床研修指導医と同等以上の経験（7年以上の臨床経験を有し、かつ医学教育・医師臨床研修における指導経験を有する者など）を有する医師。

		該当する番号に ○を付ける	施 設 名 称
自 施 設 実 習	所属施設	①	医療法人梅園会 日本看護研修病院
	実習可能な地域の施設	②	医療法人梅園会 かんご病院
		3	
		4	
実習施設が確保できない		5	

2. 受講を希望する特定行為に関する施設情報

	区分別科目またはパッケージ研修の名称		選択する科目に、○を記入	実習を行う施設の番号 (※上記リストから番号を記入する)	約3か月間で経験できる症例数の見込み ^{*2} ○、△、×
必須	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	○	1	○
		脱水症状に対する輸液による補正		1	○
選択	① 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	○	1	○
	② 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	○	1、2	○
		非侵襲的陽圧換気の設定の変更		2	○
		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		2	○
		人工呼吸器からの離脱		1	○
	③ 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換			
	④ 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入			
	⑤ 創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去			
		創傷に対する陰圧閉鎖療法			
	⑥ 動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血			
		橈骨動脈ラインの確保			
	⑦ 感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与			
	⑧ 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整			
	⑨ 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時の投与			
		抗精神病薬の臨時の投与			
		抗不安薬の臨時の投与			

区分別科目またはパッケージ研修の名称			選択する科目に、○を記入	実習を行う施設の番号 (※上記リストから番号を記入する)	約3か月間で経験できる症例数の見込み ^{*2} ○、△、×
⑩ 領域別パッケージ研修 「救急領域」		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整			
		侵襲的陽圧換気の設定の変更			
		非侵襲的陽圧換気の設定の変更			
		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与の調整			
		人工呼吸器からの離脱			
		直接動脈穿刺法による採血			
		橈骨動脈ラインの確保			
		脱水症状に対する輸液による補正（必修の再掲）			
		抗けいれん剤の臨時の投与			
	⑪ -a領域別パッケージ研修 「在宅・慢性期領域」	脱水症状に対する輸液による補正（必修の再掲）			
		褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去			
		気管カニューレの交換			
		胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換			

^{*2} 実習期間中（約3か月間）に1行為につき5症例を経験する必要があるため、予定している実習施設での見込みを記号で記入する。複数の実習施設で実習を予定している場合は合算して症例の見込みを記入する。

○：5症例以上ある △：1～4症例 ×：症例は見込めない

実習施設情報

1. 実習を行う予定の施設リスト

➤ 本会は研修修了後も特定行為の実践が有効に行われるよう、指導医^{*1}の継続した指導と安全に活動する施設基盤を重要と考えるため、自施設実習を原則としている。

^{*1} 指導医とは臨床研修指導医、もしくは臨床研修指導医と同等以上の経験（7年以上の臨床経験を有し、かつ医学教育・医師臨床研修における指導経験を有する者など）を有する医師。

		該当する番号に ○を付ける	施 設 名 称
自 施 設 実 習	所属施設	①	医療法人梅園会 訪問看護ステーション
	実習可能な関連施設	②	医療法人梅園会 日本看護研修病院
		③	清瀬市立かんご病院
		④	医療法人松山会 内科・消化器科クリニック
	実習施設が確保できない	5	

2. 受講を希望する特定行為に関する施設情報（※ 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整を選択する場合は○をつける。太枠内を記入する）

	特定行為区分の名称	特定行為名	選択する科目に、○を記入	実習を行う施設の番号 （※上記リストから番号を記入する）	約3か月間で対象となる症例の見込み ^{*2} ○、△、×
必須	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	1. 気管カニューレの交換	○	2、3	○
	ろう孔管理関連	2. 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換		2、4	○
	創傷管理関連	3. 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去		3	○
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	4. 脱水症状に対する輸液の補正		3	○
選択	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	5. 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	○	2、3	○

^{*2} 実習期間中（約3か月間）に1行為につき5症例を経験する必要があるため、予定している実習施設での見込みを記号で記入する。複数の実習施設で実習を予定している場合は合算して症例の見込みを記入する。
○：5症例以上ある △：1～4症例 ×：症例は見込めない